



2023年
10月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<https://www.nskk-kobe.org/>



発行責任者
司祭 瀬山 会治

印刷所
文明堂印刷所

主のみ顔を あおぎ見ん

ヨハンナ 弘井宗子

聖歌第519番
現し世をば はなれて
天翔る日 来たらば
いよよ近くみもとにゆき
主のみ顔を あおぎ見ん

葬送式でこの聖歌を歌う時、神様が優しい笑顔で迎えてくださっている天に向かつて、光に包まれて真っ直ぐに近づいて行く様子を想像しながら、とても穏やかな気持ちになります。私も神様の近くでみ顔を仰ぎ見たいと願う瞬間です。

高知聖パウロ教会は、信徒数が50名にも満たない教会で

進めていく中で助けになっていきます。その方々のおかげで、年若い方も、惨めなものでも、怖いものでもない事を教えていただきました。人生の中で大切にしていたものが、はっきりとした形になっていなくても、醸し出され、現れてくるということも見せていただき

ました。お祈りする時、神様への向かい方を私の目の前で教えていただきました。その方々を忘れる事はできません。30代、40代の頃、自分が背負う十字架が何であるか分からず、深く考えることもせず、ただ神様にすがることによって、随分楽に生きられるようになりました。神様は私の努力が有ろうが無かろうが、私に恵みの露を注いでくださっていることを、図々しくもありがたく信じています。60代半ばを過ぎて（教会では若い人たちと呼ばれていますが、子供たちは失笑しています）、目は霞みがちになり、忘れる事が多くなり、探し物をしている時間が増え、集中力が続かず、体に痛い所が出てきてはいます。しかし、



順調に元気に歳をとりながら、少しずつ神様のみもとに行く日が近づいていることを受け入れる事が、難しいとは思わなくなってきました。出棺の時、夕の礼拝でも用いられるシメオンの賛歌の「主よ、今こそ、あなたはみ言葉のとおり 僕を安らかに去らせてくださる わたしはこの目で 主の救いを見た」という言葉には、年老いたシ

メオンの喜びが溢れています。

レンブラントの「シメオンの讃歌」の絵の中で、生まれつきのイエス様が神殿に奉獻された時のシメオンの喜び溢れた顔に光が差しています。年老いて更に喜べるシメオンの姿は、神様への信頼が堅いことを教えてくれます。幼な子のイエス様はまだ十字架も復活も示してはおりませんが、シメオンは救い主と確信して感謝の祈りを捧げています。

私たちは、神様が送ってくださったイエス様がいらつしやるこの世界に生きていて、この希望によって教会に集まっています。ここで、この世のいろいろな心配事は神様に預けて、悪意とよこしまのパン種を除いてくださいと祈りながら、神様からのお呼びを待ち望み、神様のみもとに立つ準備を迷いながらも穏やかに進んで行きたいと願っています。

（高知聖パウロ教会信徒
神戸教区常置委員）